

あらためて…『^{じんけん}人権』ってなんだろう？

日南町人権センター(No.17-R2. 6. 29)

「^{じんけん}人権」ってなんでしょう？あらためて^{しつもん}質問されると、なかなか^{こた}答えられないですね。

「^{じんけん}人権」＝「^{にんげん}人間の^{けんり}権利」をみじかくした^{ことば}言葉。「^{にんげん}人間」は、まあ、^い意味がわかります。では、「^{けんり}権利」って、なんだろう？と^{かんが}考えてみました。

^{おとな}大人が^{はな}人権について話すときに、よくでてくる話に、^{つぎ}次のようなものがあります。

「^い権利を^は言い張るなら、^ぎ義務もちゃんと^は果たさない！」

☞ このなかの「^{けんり}権利」は、「^{ちから}力でもって、^{じぶん}自分が^{とく}得することを^{もと}求める、^{まも}守る」というような^い意味になっています。

☞ 自分のことばかり^{たいせつ}大切にしている^{ひと}人が^{つか}使う言葉、と^{かんちが}勘違いされています。

「^{けんり}権利」という言葉は、^{なが}長い^{あいだ}間使われてきた^{れきし}歴史のなかで、^い考え方や^い立場の違う人が、それぞれの^こ思い込みで、自分のなかでそれぞれの^き意味を決めています。

では、「^{じんけん}人権」・「^{にんげん}人間の^{けんり}権利」って、^いほんとうは、^いどういうことを言っているのでしょうか。ヨーロッパで^う生まれた^{かんが}考え方なので、^{がいこくご}もとは外国語です。

^{えいご}英語では“human rights”(ヒューマン・ライツ)。“human”(ヒューマン)は、まあ、人、とか人間、とか^{じんるい}人類とかでしょう。“rights”(ライツ)は？と^{じしょ}辞書で^{しら}調べてみると、

「^{ただ}正しい」というのができます。「^{けんり}権利」という訳もできますが、「^{ほんとう}正しい」が^{ちか}本当の意味に近いように思います。もとは「^{にんげん}人間としての^{ただ}正しさ」のことではないでしょうか。^{めいじじだい}明治時代に^{にほんご}日本語にするとときに「^{けんり}権利」という言葉を作^{つく}ってあてはめたので、^{にほんじん}日本人の^{あいだ}間では、わがまを^おゴリ押しする^{ちから}ような^{ふく}力を含んだ、^{こわ}なに^{こわ}か怖い言葉のように思っている人もいます。ヨーロッパやアメリカでは、^{かみさま}神様が^{あたま}人間みんなに^{あた}与えてくれたもの、とされているようです。でも、^{たし}私たちは、^{たし}神様が^{たし}いるかどうかを^{たし}確かめようがないので、「^{けんり}人権」は、人間みんなが「^{にんげん}人間の^{ただ}正しさ」とは何だろうと^{たが}考えて、それをお互いが^{たが}守るもの、と^よ考えた方が^よ良いように思います。

「^{けんが}人権」を^{まな}考^{とくべつ}えたり、^{まな}学んだりすることは、^ななにも特別なことではなくて、人を大切に思うことや、^{たれ}誰もが^な幸せに生きるためにはどうすればいいとか。答えはたくさんあるし、^な無いかもしれないし。とても^{むずか}難しいのですが、「^な人として何が正しいか」をいろんな^{ばめん}場面^{ふつう}で^{たいせつ}考えつづけるのは^{ふつう}普通のことで大切なことではないかな、と思っています。(終)